



第76号

令和3年10月1日発行

発行

広島県立障害者
リハビリテーションセンター

あけぼの

〒739-0036
東広島市西条町田口 295-3
TEL (082) 425-1455

三年前、逢う機会もないまま、賀状を交わすだけとなっていた旧友と偶然再会した。三十年を超える時を経て、互いにそれなりに老いていたが、すぐに彼であると気づいた。近況を語り昔話をした後、「元気で」と言つて別れた。彼からの翌年の賀状には交剣知愛と書いてあった。その言葉を聞いたこともなかったが、調べると交剣知愛とは、剣道の高段者であった彼らしく、相手ともう一度稽古や試合をしてみたいという気持ちになれるような稽古や試合をなさという教えを説いた言葉であり、剣を通じてお互いに理解し合い人間的な向上を図ることを教えた言葉でもあった。彼は、若い時から礼儀正しく

親切な人であったが、年齢とともに人としての深みも増しているような雰囲気があった。上手な年の取り方をしている人は魅力的である。

五十代の半ばを過ぎ、退職後について漠然と考える機会も増えた。以前、読んだエッセーには、五十代はそれまでの人生での蓄積や深さを生かし、仕込んだものを発酵させ、結実させる最適の時期だそうだが、わが身の来し方からして蓄積の少ない私にはあまり関係がない気がする。

孔子は「五十にして天命を知る、六十にして耳順う」と説いたけど、とてもじゃないが、そんな境地に至っていない。歳を重ねて痛感するのは、精神面の未熟さと体の衰えであ

る。精神面はどうしようもないが、老眼や腕が上がらないなどの話で盛り上がったたり、血圧の上昇やトイレが近くなつた、朝早く目が覚めるといった話題には事欠かない。通勤時の車のラジオで気に入らないニュースや解説があると、一人でツツこんでいるが、どうもこれも老いの特徴らしい。同世代の会話で、体の老化に関する悩みや不満を口にするものが共通の話題となることもある。

作家で医師でもあった渡辺淳一氏は「目が悪くなった、耳が遠くなつたと、ひとは文句を言う。それは了見違いだ。目も耳も心臓も内蔵も、酷使されても文句も言わず、無給・無休で働き続けてくれている。言うべきは文句ではなく、感謝だ。」と綴られた文章を読み、この言葉を日々持ち歩きたいと思つた。今後も、できないことが増えていくのだから、老いはそう悪いことばかりでなく、年齢とともに庭園や美

術鑑賞といった機会は増え、心の豊かさを求めるようになってきたことも実感している。また、若い頃に読んだ本を読みなおすと、当時はあまりピンとこなかったことも、妙に心に染み入ることがある。アンチエイジング（元々何もしていないが）と少し距離を置いた生活を続けながら、今の状態をありのままに受け止め、年齢を重ねたいと思う。



生活介護

～高次脳機能センター等他機関と連携をしながら支援しています～

あけぼのの生活介護では、常時介護を必要とする身体障害や高次脳機能障害のある方を対象に身体介護や入浴支援、日中活動サービスの提供を行い、メモリーノート等を活用しながら、利用者個々のニーズに合わせて支援を提供しています。また相談支援事業所や高次脳機能センターなどの関係機関とも連携し、新たな生活の場や地域での活動の場など生活目標やニーズの実現に向けても日々支援をしています。

1日の流れ

現在、新型コロナウイルス感染対策として、日々の活動は従来の部屋より広い、食堂で実施し、ソーシャルディスタンスの確保に努めています。

毎日司会を決め、利用者さんに出欠確認や朝礼進行等主体的に行っていただいています。

9:00～	朝礼・出欠確認、健康チェック
9:15	体操・オリエンテーション、※メモリーノートチェック
9:30～	日課・個別課題・個別PT・個別歩行 水分補給
11:15	昼食準備
11:50	昼食
13:00	個別活動、個別課題への対応
14:15	終わりの会・体操
14:30	ティータイム
15:00	生活介護終了



活動の始めと終わりに体操とオリエンテーションを行っています。体操では関節可動域、筋力などに働きかけ、身体機能の維持・向上を図っています。

オリエンテーションでは認知機能の維持向上を目的に、ゲームなどを取り入れながら、注意力や記憶力などの認知面に働きかけを行っています。

※記憶や注意機能などの代償手段として“メモリーノート”の活用を支援しています。日々利用者さんが自身の力で円滑に生活できるようにスケジュール管理やメモの記入の練習をしています。



利用者自治会

あけぼのの自治会は、利用者の方が自立をめざし、自ら進んで協力し合い、有意義な施設生活をすると共に、社会人としての規律を守り、責任ある態度を身につけることを目的として活動しています。

新型コロナウイルスの影響で様々な活動が制限される状況ではありましたが、利用者が主体となって、日々の生活を盛り上げていこうと、8月2日に自治会総会を開催しました。新しい役員を中心に誕生日会や行事など、日々の生活の中で様々な意見を募り、活動していけたらと思っています。

新役員の皆さんです



自治会総会

今年度は6名の方が役員に立候補され、利用者の皆さんから承認されました。今後、月に1回の役員会議を開催しながら、自治会活動の運営を中心的に担っていく予定です。

第1回会議では早速いくつかの建設的なアイデアが出されました。皆さんであけぼのを盛り上げていってくださいそうで、楽しみです。

総会の様子です



前会長から新会長にバトンタッチです！

もっといいあけぼの
にしようね！



新自治会長の足立一浩さんより一言



今年度新しく自治会
会長になりました、
足立一浩です。よろし
くお願いします。コロ
ナウイルスの影響で大
変な時ですが、負けず
に頑張りましょう。

行事紹介

7月16日にあけぼの夏祭りを開催しました。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、対策を考えながら様々な催し物を行いました。

プロジェクターに花火を映し出したり、釣りゲームをするなどして、夏の風物詩を皆さんに楽しんでもいただきました。また食事では夏祭りならではのメニュー（焼き鳥やフランクフルト、焼きそば、枝豆にアイスクリーム）を提供し、喜んでいただくことができました。

露店では自立訓練（機能訓練や生活訓練）を利用されている利用者の方にも協力してもらいながら、皆さんに提供しました。



利用者の動き

令和3年6月1日～令和3年9月30日

《新規利用者》9名（入所8名，通所1名）

【内訳】利用経路：リハセンター高次脳専用病床6，自宅2，事業変更1

利用事業：機能訓練4，生活訓練4，就労移行0，生活介護1

《利用終了者》8名（入所7名，通所1名）

【内訳】生活の場：自宅3，障害者支援施設（生活介護）1，グループホーム1，病院2，事業変更1

活動の場：復職1，就労継続支援A型2，障害者支援施設（生活介護）1，入院2，事業変更1，その他1

編集後記

今回題字を書いてくださったのは、利用者の濱岡義一さんです。いつも穏やかで優しい濱岡さん、題字を依頼すると筆を取り、一生懸命書いてくださいました。出来上がると「出来ました。」と素敵な笑顔を見せてくださり、その笑顔と素敵な文字にこちらの心まで和みました。

題字紹介

新型コロナウイルスが流行し、様々な制限や我慢が必要な生活を送る日々が続いていましたが、難しいとされていた東京オリンピック・パラリンピックも開催され、様々な競技でアスリートが活躍する姿は私たちに希望と勇気を与えてくれました。自国開催で時差がなかったことやステイホームの影響が例年に比べ、私自身、リアルタイムで観戦することが多かった分、とても楽しめたように感じます。新型コロナウイルスの接種も進み、少しでも元の生活へ戻ればと願う日々です。